

ひょうえのさかんどのごへんじ
兵衛志殿御返事

御書新版 1488字 4行目〜6行目
御書全集 1091字 15行目〜16行目

さんじょうしま **(三障四魔の事)**

潮しほのひるとみつと、月つきの出いずるとい入る

と、夏なつと秋あきと、冬ふゆと春はるとのさかいには、必かなら

ず相違そういすることあり。凡夫ぼんぶの仏ほとけになる、ま

たかくのごとし。必かならず三障四魔さんしょうしまと申もうす障さわり

い出できたれば、賢者けんじゃはよろこび愚者ぐしやは退しりぞく、

これなり。

語句

兵衛志殿

ひょうえのさかんどの
いけがみきょうだい
池上兄弟いけがみきょうだいの弟おとうと・宗長むねなが。兵衛府ひょうえふの「志ざかん」(四等官とうかん)という官かん
職しやくにあつた。

凡夫

ふつう
普通ふつうの人間にんげん。煩惱ぼんのう・業ごう・苦くに束縛そくばくされ、迷まよいの世界せかいで生しょう
死じを繰り返く返かえす者もの。

通解

潮しほが干ひる時ときと満みちる時とき、月つきの出いで
る時ときと入はいる時とき、夏なつと秋あき、冬ふゆと春はると
いう変かわり目めには、必かならずそれまで
と異ことなることがある。

凡夫ぼんぶが仏ほとけになる時ときも、また同おなじ
である。必かならず三障四魔さんしょうしまという障しょう害がい
が現あらわれるので、賢者けんじゃは喜よろこび、愚者ぐしや
は退しりぞくというのはこのことであ
る。

三障四魔

信心しんぎん修行しゆぎやうを妨さまたげる三障さんしゆの障さわり・妨さまたげ(煩惱障ぼんのうしやう、業障ごうしやう、報障ほうしやう)と、信心しんぎん修行しゆぎやう者ものの生命せいめいの輝かがやきを奪うばう四種よんしゆの働はたらき(陰魔おんま、煩惱魔ぼんのうま、死魔ししま、天子魔てんしま)のこと。